

## 2020年十大ニュース

### 1. 新型コロナウイルスパンデミック

昨年12月中国武漢市で発症した「原因不明の肺炎」が起源と言われる新型コロナウイルス禍が、その後100年に一度のパンデミックに繋がった。これにより各国の医療・人々の生活・経済・財政が大混乱に陥り、東京オリンピック・パラリンピックは勿論のこと、世界の外交にも大きな影響を与えている。一方で、テレワーク・WEB会議・お取り寄せなどネット利用の幅が一気に広がり、近くは住宅購入の志向・働き方などの変化から、世界的にはAIの革命的進化を予感させる動きなど、新しい時代が既に始まっているようだ。人類とウイルスの付き合いは良くも悪しくも宿命的なもののようで、私達は、早晚コロナ禍を乗り越えて、更に強くなって前進して行くものと確信している。

### 2. 異常気象と自然災害

2020年もまた異常気象とそれによる自然災害に見舞われた。冬の記録的暖冬・少雪、少降雨量、春は観測史上最も早い桜の開花、夏には九州から東北地方にかけて記録的な豪雨による甚大な被害・日照時間の最少記録・大幅に遅れた梅雨明け、台風上陸数の記録的少なさ、等々枚挙に暇がない。

### 3. 安部前首相退陣、菅政権発足、江藤前農水大臣退任、野上大臣就任

8月28日、安倍晋三首相は持病の潰瘍性大腸炎悪化による体調不良のため辞任表明した。憲政史上最長記録は2,799日で幕を閉じた。9月16日に菅義偉官房長官が第26代自民党総裁に選ばれ、菅内閣が誕生した。コロナ感染者数急増の中、諸課題の舵取りが難しい。農林水産大臣は江藤拓前大臣が退任、代わって野上浩太郎衆院議員が新たに就任した。江藤前大臣の任期は短かったが、その間豚コレラや新型コロナウイルスの待ったなしの対応から、懸案の畜産関連等の諸課題に答えを出すなど、獅子奮迅の活躍をされた。

### 4. 東京オリンピック・パラリンピックの延期

7月24日から始まる予定だった東京オリンピック・パラリンピックは、新型コロナウイルス感染が世界に拡大する中、「1年程度」延期することで日本とIOCが合意した。近代オリンピックの124年間の歴史の中で、中止されたことは3回あったが、開催が延期されるのは今回が初めてである。新型コロナウイルスパンデミック終息の兆しが未だ見えないが、ワクチン投与の開始や国際競技・プロ野球開催の成功など明るい材料も多く、来年の開催、成功に繋がることを祈りたい。

### 5. アメリカ大統領選挙

11月3日、4年に一度のアメリカ大統領選挙の投票が行われ、同日より開票が開始された。

現職の共和党トランプ大統領の再選となるか、バイデン候補を立てた民主党が政権奪還となるか、全世界が注目する選挙となった。新型コロナウイルス新規感染者数が世界一となっている中、期前投票や郵便投票が激増したこと等が原因で、開票や選挙結果の確定が遅れる州が出ており、混乱を来している。選挙後のアメリカの政局や国際関係にも影響を与える展開となりそうである。

## 6. 米中戦争

中国が手を尽くしてアメリカに迫り着き追い越そうとする一方で、アメリカは世界の座を引続き確固たるものとするべく矢継ぎ早の対策を打ち出しており、貿易・安全保障・技術・宇宙・情報・人権・領地領海・新型コロナウイルス関連など全ての分野で、さながら米中戦争の様相を呈している。そうした中、アメリカが「中国」ではなく、「中国共産党」を相手にしていることが興味深い。古くは中国とある種の朝貢関係にあり、そのうちヨーロッパの強国ともうまく付き合い、近くはアメリカとの一定の関係を構築している日本の、次代の国際関係に導く逸材達の登場が待たれる。

## 7. 肥料取締法の改正

農業生産力の維持増進の寄与、国民の健康の保護に資することを目的として昭和25年に制定された「肥料取締法」が、令和元年11月に改定された。国内の低廉な堆肥や産業副産物を活用し、農業現場で柔軟に対応した肥料を供給することを主眼としている。改正内容の内「肥料の配合規制ルールの見直し」、「法律の題名の変更」については本年12月1日に施行、「肥料原料管理制度の導入」や「肥料の品質や機能などの表示基準の設定」については、令和3年12月1日に施行される。細則に付いては評価が分かれる部分もあるようだが、名称が「肥料の品質の確保等に関する法律」に変更され、業界の長年の要望であった「取締法」の文字が削除されたことは喜ばしい。現行の法律の名称が途中で変更されることは珍しい。商系のメーカー・流通団体等からの要請を受けて調整頂いた農林水産省は勿論、内閣府の力添えも頂いた。

## 8. 農業関連

### (1) 米需要減、価格下落

新型コロナウイルス感染拡大により、巣ごもりが増え家庭用販売は堅調ながら外食やインバウンドなど業務用需要が低迷し、米の民間在庫量が積み上がる状況が続いている。この需給緩和を受け、農水省は21年産の需給均衡には過去最大規模の6.7万ha(36万t)の転作が必要と明示した。輸出・加工用米、麦、大豆、野菜などの転作の他、飼料用米にも支援する方針だが、これまで主食米市況の下落防止の為政策的に手厚い補助金や交付金支給を続けてきたことが供給過剰が増幅された一因とも言われる中、生産者は一段と厳しい選択を迫られることとなった。

### (2) 高収益作物次期作支援交付金

新型コロナウイルス感染症の発生により、市場価格が低迷するなど影響を受けた野菜、果樹、茶等の高収益作物について、次期作に前向きに取り組む生産者を支援する公募が本年6月から始まった。予想以上の応募が殺到した為10月に運用見直しを公表したことで、現場では交付金を見込んで機械や資材などの投資を済ませた生産者に混乱が生じ、追加支援措置を講じている。尚、7月にある府県に於いて交付金支給の取組例として「産地等で推奨する品目又は品種、肥料、農薬、資材について導入するには指定がある」旨明記し、地元JAの肥料注文書を添付し予約受注する事態が発生した。全肥商連より農水省にお知らせし、同省のQ&Aに「産地等が推奨する肥料、農薬、資材については、特定の事業者等が販売している商品に限定されるものではなく、特定の事業者等の商品のみを指定・限定し、当該商品のみが支援対象であるかのように指導することは適切ではありません。」と明記され、当該生産現場の混乱は収まった。他にも例があり、各地方農政局とも連絡を取っている。

### (3) 農林水産省肥料関連の主な人事異動

- ・農林水産大臣 江藤 拓 氏 ⇨ 野上 浩太郎氏(令和2年9月16日)
- ・農林水産事務次官 末松 広行氏 ⇨ 枝元 真徹氏(令和2年8月3日付)
- ・大臣官房生産振興審議官 鈴木 良典氏 ⇨ 安岡 澄人氏( — " — )
- ・消費・安全局農産安全管理課長 安岡 澄人氏 ⇨ 及川 仁氏 ( — " — )

## 9. 肥料関係

新型コロナウイルス感染拡大により、2月以降の肥料輸入原料の一部に遅延が生じたが、当用期3~4月の生産者への製品供給に大きな混乱は見られなかった。しかし3月以降外出自粛、在宅テレワークが続く中、各種総会、講習会、研修会、生産現場での現地試験・指導・検討会などは軒並み中止となり、メーカー・商社などの営業普及活動も、直接面談・打合せは殆ど不可能となり、電話やFAX、メールやWEBによる情報提供などに代えざるを得なくなっている。

トピックスとしては、現在、農水省主導で、肥料物流改善を目指す一貫パレチゼーション体制構築に向けた実証試験が行われようとしている。

## 10. 全肥商連事業関係

### (1) 新年賀詞交歓会：1月15日(水) 於：東京ガーデンパレス

講演会では江藤拓農林水産大臣(当時)と新井ゆたか農水省消費安全局長からご講演頂いた。江藤大臣からは、「日本のこれから」の演題で、「食は国の基、業界の皆様には官・政に無い民間だから出来る素晴らしい知恵と経験があり、それぞれの立場でベストを尽くして頂きたい。現場の方々に役立つ仕事をこれからもやってゆきたい。」と日本農業の将来性と農政への熱い意気込みを語って頂いた。新井局長には、「最近の情勢報告」の演題で、農業環境、農業資材をめぐる情勢と肥料取締法の改正に至る過程と概要など、新たな施策の展開についてご講演頂いた。

(2) 全国研修会:

東京オリンピック・パラリンピック開催が予定されていた為、例年の7月から11月に延期して東京にての開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止した。また令和3年7月に「第56回全国研修会」を金沢市で開催すべく準備を始めていたが、現段階では新型コロナの収束が見えず先行き不透明であることから、令和4年7月に延期を決定した。1年延期により安心してお集まり頂けるよう、充実した内容を企画したい。

(3) 施肥技術講習会:

2月19日(水)~20日(木)東京農業大学にて、「第29回施肥技術講習会」を開催した。基礎・実学混合コースで、164名に受講頂いた。「第30回施肥技術講習会」は当初6月に静岡市で開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により11月5日(木)~6日(金)に延期して開催し、88名に受講頂いた。会場は新型コロナウイルス感染防止のため、検温、手洗い、消毒、マスク着用を徹底し、座席も間隔をあけた指定席にして、2会場に分けて臨んだ。反省点もあるが、概ね無事に終了した。感染状況の推移等を見て最終決定するが、次回は令和3年2月25日(木)~26日(金)福島県郡山市を予定している。

(4) 理事会、社員総会

1月15日(水)、令和1年度第2回理事会は予定通り東京ガーデンパレスで開催したが、8月19日(水)第3回理事会はZOOMを使用したWEB会議で実施した。9月8日(火)令和2年度第1回理事会は、社員総会の後WEB理事会を開催し、社員総会の結果報告を実施した。社員総会は、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、委任状又は議決権行使書による総会とし、特別講演会・懇親パーティーは中止した。「令和1年度事業報告・収支決算報告」、「令和2年度事業計画・収支予算案」の決議事項に付き、上程した全ての議案が全会一致で原案通り承認可決された。

(5) 令和3年新年賀詞交歓会中止

新型コロナウイルス感染者増加の中、令和3年の全複工との合同賀詞交歓会も、特別講演会と共に中止とした。

令和3年は新型コロナウイルス感染症が早期に終息し、平穏で日常の健全な業務活動が一日でも早く再開出来ることを願っております。

以上